興照寺報（こうしょうじほう）

平成30年6月
66号

発行　浄土真宗　興　照　寺
〒890-0045　鹿児島市武一丁目25番12号
電話 099-254-3269 (代)FAX 099-254-0303

――お知らせ――

住職（代表役員）を瀬川英孝（長男）から瀬川英憲（二男）に引き継ぐことになりました。

（二面に関連文）

昭和三十五年、鹿児島で初めての
鉄筋コンクリートの本堂完成

一頁　お知らせ、『ともに』
二頁　「つたえ～つどい～つながって」
役員紹介
三頁　寺院について考える
浄土真宗豆知識
四頁　行事案内とお願い

『と　も　に』

「自利利他円満」という言葉があります。自利というのは自分が覚りを得て仏に成るということであり、利他とは他を覚りに到らしめる、つまり救うということで、それらが別々のものではなく、自らの覚りがそのまま他のいのちの救いであり、それが円満にできあがっているということです。

浄土とは、私のいのちの完成の世界です。なぜ私たちが浄土に往生しなければならないのか。浄土は自らを完全に利益し、他を完全に利益することができる世界であるからです。この自利利他の完成こそ、私のいのちの完成です。

何よりも大切でかけがえのないいのちをみんなそれぞれ生きています。自分の殻に閉じこもり、自分のことだけを思い、一人ぼっちの淋しい人生を歩むのではなく、ともにお念仏の道を歩ませていただける喜びを一人でも多くの人と分かち合っていきたいものです。

（英憲記）

このたび、興照寺の住職を引き継ぐことになりました。重責を果たしていけるよう真摯に努めてまいる所存です。ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

興照寺は、祖父瀬川覚英と父瀬川英明が、昭和二十七年に高麗町にある興正寺別院を離れた時、現在地にあったそれまで説教所として使われていた施設を『武町興照寺』として建立したお寺です。「たくさんの門徒さん方のご協力とご尽力があったからこそ『武町興照寺』を造ることができた」と子どもの頃よく祖母や父母から聞かされました。そしてそのあと必ず「門徒さんを大事に。ご恩を忘れないように。」との言葉を添えていました。自分の寺ではなく、門徒さんあっての寺という意識が子どもの頃から自然と培われていったと感じています。この意識はこれからも大切にしていかなければいけないと肝に銘じています。

寺報第六十三号（昨年七月発行）の一面で、静岡市にある教覚寺をご紹介しました。「お寺というのは大きな家族」という考えに共感を覚え、昨年九月訪ねて来ました。「お寺というコミュニティーは、先に往った人たちを含め、血縁を超えてつながることが大事」という言葉に感銘を受けました。

これからの興照寺のあり方として三つの目標を立てました。

①法務活動の充実

②憩いの場・交流の場としての機能強化（お寺に親しんでいただく）

③地域社会の健全な発展への寄与（地域とのつながりを深める）

そして、キャッチフレーズとして**”つたえ～つどい～つながって“**を掲げました。

みなさんと《つながりあっていたい》と心から思っています。

微力ながら精一杯努めさせていただきます。（英憲記）

つたえ～つどい～つながって

寺役員紹介

代表役員
瀬川　英憲

責任役員
久永　修平、永田静一郎
馬場　正蔵、川井田　學
有村　忠、瀬川　英清

監事
高山銀次郎、丸山　賢治

総代
井ノ上英記、永家　俊三
村田　隆、福留　積治
有馬　純博、竹井　勝志
御領　勝芳、田中　藤雄
大山　康成、宇治野玲子
稲留　靖子、瀬川　英孝
瀬川　英之

（順不同・敬称略）

寺院について考える

この度、住職が変わりました。これを機会に改めて『寺院』の在り方について考えてみたいと思います。

本願寺の「浄土真宗必携」には（寺院とは、住職を中心とする門信徒の集まりをいいます。寺院は、わたくしたちの聞法と研修の道場であり、また法要儀式を行うなど、寺院としての目的を果たすための仕事をして、公共の福祉に寄与する場です。いうなればお寺は、わたしたちにとって、仏法を聴聞する場であり、現実の苦悩の解決をはかる場です。さらに、地域の文化センターでもあり、いこいの場でもありましょう。そういう生きた寺院活動のためには、より多くの人びとの参画が必要です。）と、あります。

わたしどもは、親さまのおそだて、お寺のおそだてによってと教えられてまいりました。多くのものをみなさま方からいただき、教えていただきました。まだまだこれからではありますが、みなさま方からいただいたもの、お教えくださったものを少しずつでも還元していきたいと考えています。その場が寺院であります。

（現在の興照寺）

そのことを確かなものにするためには、寺院内の努力はもちろん、みなさま方のご協力が大切であります。開かれたお寺として、門徒の皆さんも自分のお寺としての意識をもって寺院活動に参加していただきたいものです。

今年三月この紙面に「御同朋・御同行」と書かせていただきましたが、まさに寺院は「御同朋・御同行」の集まりでなければなりません。わたしもあなたも共に今を悩み、苦しみ生きる者であります。そして同じ教えを頂き、共に救われる仲間、お浄土に生まれさせていただき仏と成る仲間の集まる場所であります。阿弥陀様の前では一切が平等であります。寺院とは、お念仏をいただき感謝しつつお互いに信頼と尊敬の念をもって共に同じ視線で語り合える場所でありたいものです。

（英清記）

浄土真宗 豆知識

浄土真宗では線香を寝かせて供えます。何故でしょうか。

日本で線香が使われだしたのは十五世紀ごろと言われています。親鸞聖人は十二～十三世紀を生きられた方なので当時線香はなかったのです。聖人のお墓（廟）にお香のかおりが絶えないようにしようと考えた門弟たちは、香炉の灰にジグザグの溝を付けてそこにお香と木屑（きくず）を敷き詰めるという方法をとりました。端に火を点ければ溝に沿ってじわじわと燃え移って長時間お香の煙が立ち続けるわけです。十五世紀に線香が登場するまでずっとこの方法がとられてきていたので、一般にも線香が広く使われるようになった時、ご門徒の方々が親鸞聖人の御廟の前で昔から引き継がれてきたやり方に倣おうということで灰の上に香（線香）を，置く，作法が定着したと言われています。

現在でも大谷霊廟の常香盤（じょうこうばん）では同じ方法でお香の煙が絶えず上がっています。

（英之記）

秋季彼岸法要のご案内

九月	午前 十時より	午後 二時より
二十日(木)	○	○
二十一日(金)	○	吹上
二十二日(土)	吹上	／
二十三日(日) お中日	○	○

（○の日時にあります）

・講師　田中　誠證先生
（大分県）

秋季永代経法要のご案内

・期日　十月二十　日（土）
　　十月二十一日（日）
・時間　朝席　十時より
　　昼席　二時より
・講師　北川　顕正先生
（熊本県）

※永代経志納を希望される方は、十月十三日までに寺へご相談ください。
〈永代経志納のお勤めは二十一日（日）の昼席に行います〉
※どなたでも聴聞できます。気軽にご参加ください。

報恩講のご案内

・日　十一月二十五日（日）
・時間　朝席　九時半より
　　昼席　二時より
・講師　黒田　了智先生
（大分県）

門徒会費・納骨堂管理費納入のお願い

今年度門徒会費等が未納の方がおられます。ご確認の上、納入をお願いいたします。

お盆参りについてお願い

初盆や寺でのお勤めを希望された方には日時などを書いた文書を同封してあります。
自宅でのお参りを希望された方は、日時などお約束できませんのでご了承ください。

花まつり・帰敬式・和順会総会が開かれました

法要後の懇親会を今年から寺の駐車場で行うことにしました。特設の舞台の上で踊りやカラオケ、手品などが披露されたあと、抽選会もあり楽しいひと時を過ごすことができました。

お盆中の納骨堂のお参りについて

八月の十三日・十四日・十五日は閉館時間を午後九時にします。午前九時頃から午後三時頃までは寺での法要と重なり駐車場が混雑しますのでご留意ください。また、長時間の駐車もご遠慮ください。

あとがき

大河ドラマ「西郷どん」が幕を開けて半年過ぎました。いよいよ幕末から維新にかけて西郷どんの本格的な活躍が展開されます。ますます目が離せません。わが郷土の偉人達、チェスト！キバレ！

（英憲記）